

まほろば



2011.4
第117号

3月11日は忘れません!!

もし、自分の愛する家族が突然いなくなったら
どうするでしょうか。
もし、自分の隣の愛する人が突然いなくなったら
どうするでしょうか。
もし、自分の大切な人が突然いなくなったら
どうするでしょうか。

そのようなことは夢であってほしいと思いますが、
しかし、現実に大ぜいの方に起きてしました。
3月11日の東日本大震災です。想定外の大地震に想定外の大津波、そして起きてはならない、いや、起きてはならない原子力発電所の大事故と誰しもが忘れることのできない日になりました。

当院においても不幸にしてこの津波によって職員が亡くなりました。ご家族を亡くされた方もおられます。また、自宅が津波によって住むことができない状態になつたり、地震の影響で自宅が全壊あるいは半壊となつた職員もあります。さらには、実家を津波で流されたり、原子力発電所の事故によって避難を余儀なくされているご家族や親戚を抱えている職員もあります。さらに、国立病院機構おいても地震による被害や津波を直接受けた病院もあります。

余震が止まない中で、私たち職員一同、当院を利用されます患者さまにより安全で安心な医療の提供していくことに努力しております。

自分の愛する家族といつまでも一緒に
いられますように。
自分の隣の愛する人といつまでも一緒に
いられますように。
自分の隣の大切な人といつまでも一緒に
いられますように。

今回の震災は『想定外』という言葉で表現されています。職員全員で知恵を出し合い、想定外と表現されるものを少しでも減らす工夫をし、改めて危機管理マニュアルを再考し、ひとつひとつ試行を積み重ね、当院を利用されます患者さまに安心・安全、そして満足をしていただける医療を提供できるよう決意を新にしております。

道元禅師は日本の四季を

「春は花 夏はほととぎす 秋は月
冬雪汎(さ)えて 冷(すず)しきりけり」と詠んでいます。

現在私たちには、少しだけ待たなければならぬかもしれません。少しだけ我慢をしなければならないかもしれません。

すべての人にこの美しき日本の風景を五感で感じられる日が一日も早く来ることを望んでおります。

(管理課長)

邪氣を払う桃・桃の節句・ひなまつりー企画展「おひなさま展」ー



2月10日(木)から
3月21日(月)、弘前市立博物館において
「おひなさま展」が開催されました。

弘前市立博物館は、近代建築家の巨匠として知られる前川國男の設計で、弘前公園の一角にあるモダンでありながら落ち着いた雰囲気の建物。今回の「おひなさま展」では、江戸時代享保年間に流行した「享保雛」や、有職(ゆうそく)の作法に忠実に従った装束を纏った「有職雛」、眼に水晶やガラス玉を使用した写実的な「古今雛」、一組の蛤の内側に同じ絵を描いた美しい「貝合わせ」等が、実に見事な保存状態で展示されていました。

特筆すべきは、豪奢で精緻な誂えの旧藩主津軽家のゆかりの「蝋色笹唐草御紋付雛道具」約100点。言葉を失う程の素晴らしさにただただ圧倒され、時間が経つのも忘れて見入ってしまいました。鏡面のように磨かれた黒色の漆塗りに、上品な笹の葉を主題とした唐草模様、そして「津軽牡丹」の御紋。簾笥や衣桁(いこう)、

茶道具に三味線や琴等の楽器、将棋や碁、搔巻(かいまき)や刺繡の施された打掛、どれを取っても、サイズが小さいだけで、実物そのものの見事な作りでした。中でも眼を引くのはかなり大振りな「女乗物」。中には稚児人形が座していました。(これは、「おひなさま展」の目録の表紙にも写真が使われています。)

ひなまつりは桃の節句。この桃、平安時代には乾燥させた種を薬として用いており、邪氣を払う靈木として3月3日に飾られていたそうです。水辺へ出て人形(ひとがた)に不淨を託し、それを流すことから始まったひなまつり。子の健やかな未来を願う気持ちには、今も昔も変わりありません。

一この度の記事につきましては、弘前博物館のご好意により、展示物の写真撮影並びに使用許可をいただきました。御礼申し上げます。



入院係：工藤 真淑

第2回『母乳育児フォーラム』を開催して 平成23年2月25日(金)18時00~19時30



当院では、母乳育児の推進に取り組んでおり、2007年7月28日に「赤ちゃんにやさしい病院『B F H (Baby Friendly Hospital)』」に認定され、今年は、クリーニングの年となります。

これまで、母乳推進の講演を2回開催し、昨年より「母乳育児フォーラム」を開催しています。1回目は、院内職員と保健センターの職員の参加をいただき、「母乳支援のためにできること」は何か、グループワークを行い体験談からの提案を発表しました。

今回は、院内外からの多職種の取り組みを発表いただき、意見交換することで、さらに地域で母乳育児を推進する機運が盛り上がるよう願い、院内B F H委員会が中心となり企画しました。

当日は、68名の参加をいただきました。参加者の内訳は、院内49名(医学生2名、看護学生4名を含む)、院外19名(市内で初めてB F Hに認定された健生病院より4名・保育園1名・調剤薬局の薬剤師2名・弘前市保健センター職員7名・当院で出産された母子2組・他3名)でした。

柿崎副院長の開会のあいさつでは、それぞれ機能の違う病院がこのように同じ趣旨をもって意見交換する機会が設けられたことや地域で取り組むことの重要性について話され、その後各職種の発表へと移りました。

弘前病院の母乳育児支援については、過去の当院母乳率の推移や補足についてデータで示され、退院後の母乳外来での支援の質が重要であること、更なる技術の向上が求められることが話されました。

薬剤師の立場からは、健生病院薬剤科での取り組みと、退院後の服薬について、母乳をあげる際に注意の必要な薬剤は3割程度であり、赤ちゃんへの影響を少なくできる服薬の仕方を指導していること、退院後の受診科は内科・歯科が半数を占めており、母乳継続のためには、内科・歯科医師への投薬に対する情報提供が重要であることが述べられました。

栄養士の立場からは、妊娠から産褥、4ヶ月及び7ヶ月健診までの関わりについて実際の指導内容がわかりやすく報告されました。その際、保育士さんからは、アレルギーのある児の母乳栄養について、困っていること、最近の治療方法についての質問があり、問題解決の糸口となったようです。

最後に保健師の立場からは、弘前市の1ヶ月訪問時の母乳栄養調査では人工乳が8.7%と母乳率が高い状況で、これは、市内B F H 2施設の存在とともに、市の訪問助産師の地道な活動の成果であると発表がありました。

それらの発表内容と意見交換から、具体的な課題達成に向けて地域で母乳を推進するための方策が浮かび上がってきました。

母子医療センター看護師長：前田 美佐子



全体意見交換

細胞診の話—顕微鏡で何が見えるか—



細胞をみて診断することを細胞診といいます。細胞診は、全身のあらゆる臓器の細胞が対象となり、採取した細胞を顕微鏡を用いて診断します。細胞診は悪性腫瘍の診断、感染症や炎症性病変の診断のほか、性周期や妊娠、分娩異常の判定にも使われます。これらの検体に含まれる細胞は、細胞検査士の資格をもつ臨床検査技師によってスクリーニングされ、細胞診専門医が良性、悪性などを診断します。

細胞診は組織診と異なり、材料の採取方法が簡単なこと、患者さんに与える負担が少なく反復検査が容易なこと、標本作製に要する時間が短く早く結果を知ることができること、などメリットが多いです。しかし、胆汁細胞診のように変性が加わりやすい検体の場合や、骨・軟部腫瘍などでは細胞診断がときに困難であり、臨床情報を十分に考慮して判定にあたることが大切です。

採取方法は擦過法(子宮頸管部・体部、気管支)、分泌物吸引(胃液、胆汁)、沈渣塗抹(体腔液、尿、脊髄液)、直接塗抹(喀痰、乳頭分泌物)、洗浄法(腹膜腔、

膀胱)など様々で、この他穿刺吸引細胞診(乳腺、甲状腺、肝、リンパ節など)のように、質的診断のための細胞診も近年増加の傾向にあります。

日本ではがんは死因のトップで、現在死因の3割を占めています。しかし、日本のがん検診受診率は20~30%でまだまだ関心が低いようです(欧米は約80%)。がん検診による早期発見が早期治療の第一歩です。細胞診はとくに前癌変、初期癌の発見に威力を発揮しますので、子宮がん、肺がん検診などの積極的な受診が望まれます。

(平成23年3月23日)



研究検査科：松本 一仁

【リスクマネージメントフォーラム】



平成22年度のリスクマネージメントフォーラムが、3月9日に当院大会議室にて開催されました。大会議室には並べられるだけの椅子を用意しましたがほぼ満席となるほどの参加者で職員の医療安全に対する興味の高さを感じました。

今年のリスクマネージメントフォーラムは、第10回目という節目の年にあたり、2011リスクマネージメントセミナーとの2部構成が組まれました。2011リスクマネージメントセミナーでは、「患者様への情報提供のあり方」と題しまして、接遇の基本的な内容から、動作や声掛けなどコミュニケーションの要点について、楽しく、分かりやすく専門の方からお話をいただきました。

リスクマネージメントフォーラムでは、医療に関する

訴訟などに詳しい弁護士の増田 聖子先生を名古屋からお招きし、「インフォームド・コンセント」について、歴史、解釈、医療事故法律相談からみた現状、法律としてのインフォームド・コンセント、今後のあり方について、詳しくお話をいただきました。更に実際にインフォームド・コンセントに関連した訴訟の判例についても分かりやすく解説していただきました。熱心な質問がたくさん出され、大盛況のうちに閉会となりました。

患者さんを思いやるいたわりの心を職員個人がぶれることなく持ち続けることで、自ずとインフォームド・コンセントの要件が満たされ、またそのためにも接遇やコミュニケーションのスキルを向上させていかなくてはならないと感じました。



副薬剤科長：西村 康人

【リード医療安全のとりくみ⑩】

事務部では弘前病院の理念のもと、他部門との情報交換を積極的に行い、安全で快適な病院づくりに取り組んでおります。

平成22年度における事務部の医療安全目標を次のとおりに掲げています。

1. カルテ管理の徹底

過去に、カルテの運搬中に立ち寄った場所にカルテの置き忘れ、検査伝票・レポート等を綴り忘れた事例をふまえ、患者情報を保有していることを常に意識したカルテの取扱・管理の徹底化を図ります。基本中の基本事項ではありますが、カルテの取扱・管理を細心の注意を払って行うことが、医療安全の第一歩として取り組みます。

事務部での医療安全の取り組み

2. 建物、各種機器の保守管理の徹底

建物、設備機器、医療機器等の保守点検はもちろんのこと、故障や老朽化等不具合情報をキャッチし、必要な処置、修繕等速やかな対応を図り、事故の未然防止に努めます。

「整えよう療養環境つくりあげよう作業環境」を合い言葉に、患者様の快適性の向上とスタッフの働きやすい職場づくりのバックアップを行っていきます。

事務部 リスクマネージャー：豊田 篤

【リード医療安全のとりくみ⑯】

放射線科の日常業務では、多種多彩な機器がある関係上、ほとんど一人で患者さんに接しなければなりません。その為、事故を防ぐには放射線技師個人の安全に対する意識が重要になっています。また、昨年度のヒヤリハット報告で、もっとも多かったのが、指示等の確認ミスでした。このことを踏まえて今年度の放射線科の目標は、患者および指示事項の

放射線科における医療安全の取り組み

確認の徹底など基本的な間違いを無くすことに設定しました。個人個人が注意することはもちろん、スタッフ同士がお互いに客観的に観察をして、お互いの不足を補いあえる方向にできれば、より安全な医療を提供できると考えています。

放射線科 リスクマネージャー：佐久間 教之

外来診療一覧

◆外来医師診療一覧表 (2011年4月1日現在)

診療科	区分	月	火	水	木	金
循環器科		熊本秀樹	熊本秀樹	熊本秀樹	熊本秀樹	熊本秀樹
呼吸器科		山本勝丸	中川英之	中川英之	山本勝丸	中川英之
		下山亜矢子	下山亜矢子	下山亜矢子	下山亜矢子	下山亜矢子
消化器・ 血液内科		太田健	太田健	太田健	太田健	太田健
		松木明彦	五十嵐崇徳	五十嵐崇徳	五十嵐崇徳	五十嵐崇徳
		佐藤年信	松木明彦	佐藤年信	松木明彦	佐藤年信
小児科		三上珠希	野村由美子	杉本和彦	野村由美子	野村由美子
		杉本和彦	佐藤工	三上珠希	佐藤工	杉本和彦
		—	—	佐藤次生	佐藤次生	—
外科		田澤俊幸	高橋克郎	横山昌樹	横山昌樹	三上勝也
		三上勝也	三上勝也	田澤俊幸	高橋克郎	横山昌樹
整形外科	午前	柿崎寛	柿崎寛	秋元博之	秋元博之 大鹿周佐 又は	柿崎寛
		大鹿周佐				
		間庭敬一郎	佐々木規博	大鹿周佐	能見修也	秋元博之
	午後	—	—	—	—	柿崎寛
脳神経外科		—	—	木村正英	—	—
皮膚科	午前	熊野高行	佐藤正憲	佐藤正憲	熊野高行	熊野高行
		佐藤正憲	熊野高行	熊野高行	佐藤正憲	佐藤正憲
	午後	●予約	●手術/検査	●予約	●手術/検査	●予約
泌尿器科		大和隆	大和隆	大和隆	大和隆	大和隆
産婦人科		小笠原智香	尾崎浩士	小笠原智香	●妊娠検診	尾崎浩士
		柞木田礼子	鈴木洋一郎	鈴木洋一郎	(一般外来休診)	柞木田礼子
眼科		蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義
耳鼻咽喉科		黒田令子	黒田令子	●手術	黒田令子	黒田令子
		二井一則	二井一則	(一般外来休診)	二井一則	二井一則
	診断	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄
放射線科	治療	—	—	川口英夫 (午後)	—	—
女性専用外来		杉本菜穂子(※予約制/第1・第3火曜日午後診療)				
セカンドオピニオン		—	—	—	今充	—

※ 学会、出張などにより担当医師が替わる場合があります。

患者相談窓口

『患者相談室』のMSW(メディカルソーシャルワーカー)が対応していますので、お気軽にお尋ね下さい。

お知らせ

編集委員会より

当院の広報誌『まほろば』は、地域に信頼され、納得の医療で地域に貢献しつつ、地域と協働して歩む病院づくりを目指し、地域の方々を対象に編集しております。

皆さまから病院に対して『不安なことや不満足なこと』『ご批判やご指摘』を職員一同お待ちしております。

発行元



Hirosaki National Hospital
独立行政法人国立病院機構

弘前病院

責任者：臨床研究部長 泉 亮

〒036-8545 弘前市大字富野町1番地

TEL 0172-32-4311

FAX 0172-33-8614

URL <http://www.hosp.go.jp/~hirosaki/>